

## 三条通りが倍に拡幅されます

今回は「中心市街地活性化基本計画」の中で、メイン事業として位置づけされている三条通りの拡幅整備について、歴史的経過も含めて紹介します。

### 1 三条通りの歴史

三条通りのルーツはいまから約1300年前の「奈良時代」まで遡ることができます。

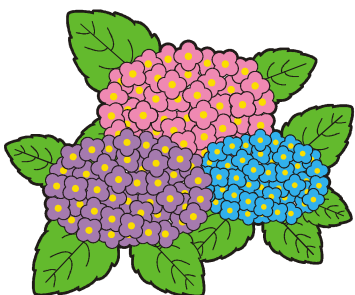
平城京は、710年(和銅3年)元明天皇の時に藤原京(今の橿原市を中心京域として694年~710年までの都があった地)から奈良の地に都が移され、一時的に恭仁京への遷都が行なわれたものの784年、長岡京に遷都されるまでの約70年の間、古代日本の首都として栄えました。

平城京の大きさは、東西は外京を含め約6.3キロメートル、南北は約4.7キロメートルにもおよび、造営の手本とされた唐(中国)長安城の約4分の1の面積を有していたとされています。

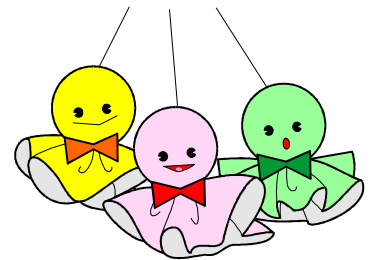
平城宮の朱雀門から京域南端の羅城門までの南北約3.7キロメートルを築地塀間の幅、約90メートルの朱雀大路(朱雀門と共に一部復元)が通り、これを中心に南北軸を「坊」、東西軸を「条」とした幹線道路が通り、又、これを補完する形で「坊間道路、条間道路」が碁盤の目のように整然と通っていた条坊制の都市計画を採用した都城であったことも文献や発掘調査で確認されています。

また、最近の話題としては、平城京域の南端が従来の羅城門のある九条大路が定説であったのが、奈良市と

の境界付近の大和郡山市側での発掘調査により、更に530メートル南の十条大路まであったのでは?と、新聞報道されていましたの思い出しました。



さて、「三条通り」ですが平城京の時代は、幅員約24メートルの「三条大路」として整備されてから以降今日までの間、幅は狭くなったものの、そのままの位置で1300年もの長い間継続して存在し、いつの時代の人々にも愛され、守られ、生き続けてきた唯一の由緒ある道だと思います。



この「三条通り」を平成のシンボルロードとして再整備を行って中心市街地活性化の目玉にしようとするものです。

### 2 都市計画としての三条通り

三条通りが都市計画道路として初めて決定されたのは、当時、「春日一鳥居三条線」という名称で春日一鳥居から三条町までの延長2270メートル・幅員16メートル・2車線で、昭和8年5月19日告示と記録に残っている、今から75年前のことである。

その後、昭和41年10月に都市計画道路の全体的な組み換えが行なわれ、高畑町(春日一鳥居前)から三条町(今のJR奈良駅前交差点)までの延長1261メートル・幅員16メートル・2車線を「三条線」として都市計画決定を行うと共に、西側を踏み切りから尼辻町方面へは「三条菅原線」として都市計画決定されました。

そして現在は、平成19年3月の変更で「三条線」は2区間に別れ、高畑町(春日一鳥居)から樽井町(猿沢池西詰)までの延長390メートルは幅員16メートル・2車線のままですが、これより西の三条町(JR奈良駅前)までの延長870メートルを幅員16メー

ル・1車線（今と同じ東行きの一方通行）とし、歩道空間を大幅確保するよう見直しされました。

この見直しについては、地元「三条通りまちづくり協議会」が平成6年7月から延べ約70回に渡り、三条通りの整備計画を検討する会議を継続されてこれら纏められた計画をベースとした内容となっています。

奈良市では、この様に住民からの提案を受けての都市計画道路の見直しは初めての試みでもあり、今後の道路計画のあり方について、1つの光明を見出したことに高く評価して良いだろう。

「三条通りまちづくり協議会」での主な検討課題を以下の通り纏めてみました。

#### ○ 1車線一方通行について

三条通りの性格から、商業活動を活発化することが求められ、当初から全面通行止めの意見もありましたが、裏道もないため車を通す必要性があり、今までどおり車と人との共存を続けることで合意し、最終的には1車線の一方通行でまとまっています。

#### ○ 幅員16メートルについて

JR奈良駅前が整備され、三条通りも同様に整備されれば人の流れも変わってくる、現在のままでは将来性はなく、歩道機能を充実した拡幅は必要と言う方向で纏まっている。（事業実施の段階で、一部の地権者等で反対の意思表示が出ている。）

#### ○ 具体的な整備について

- ① 歩行者の安全性、快適性を確保するため、車道幅は4メートルとし、歩道と車道の境には、ポラード（注記）を設置し、歩車道の境はなるべく段差を押さえたフラットな形状とする。

- ② 荷捌きのための停車スペースの設置。
- ③ 奈良の景観に配慮した照明灯や案内板の設置。
- ④ 出来るだけまちなかの緑を確保するため、植栽樹木の配置。

#### ○ その他、地区計画の導入

- ① 三条線の計画に併せ建築物の立替等を適切に誘導するため、建築物の用途制限を行うとともに壁面の位置を三条線の計画幅員内に設けてはならない。
- ② 新たな屋外広告物に対しての面積規制をもうける。等（詳しくは「三条通り地区地区計画」＝市都市計画課）

### 3 三条通り（三条線）の事業概要と進捗状況

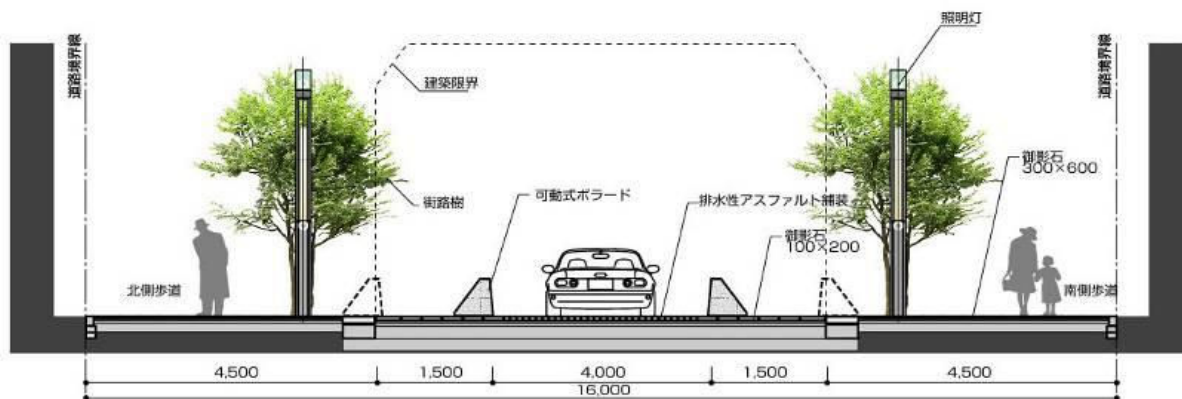
三条通りの拡幅整備事業は現在、奈良市の直轄事業として2つの工区に分けて実施しています。

1工区の上三条工区は、平成9年3月から事業を開始し、完成予定を平成23年3月末としています。

事業区間は、やすらぎの道交差点から旧奈良銀行の前までの延長165.7メートルで総事業費として17.5億円を見込んでおり、本年3月末での事業進捗率は約60パーセントとなっています。

もう一方2工区の三条工区は、1工区から続いて西へJR奈良駅前交差点までの延長317メートルで平成遷都1300年を目指して、昨年の平成19年4月に事業開始しています。

奈良市では、「中心市街地活性化計画」の中で、JRと近鉄の両奈良駅を結ぶシンボルロードと位置づけ、最重要事業として早期完成を目指し取り組んでいます。



標準断面イメージ図

（注記）ポラード = 「車止め」

三条通りの街路整備計画では、歩車道境界部のニュートラルゾーンに、平常時とイベント時などの道路の使い方に応じて、位置が変更できる可動式のポラードの設置計画が検討されています。

このポラードは、豊かな歩道空間を確保すると共に、日常的な荷捌き車両などの一時的な停車にも対応することを考慮して考案されたものです。

現在の三条通り



三条通り 完成予想図 (イメージ)



### 奈良市道路建設課より…

三条通りについては駅と周辺市街地を結ぶ歩行者ネットワーク強化の軸であり、奈良市のメインストリートとして、歩道機能を充実させ賑わいを高めると共に商店街の活性化についての取り組みも進めているところであります。この三条通りの整備を基に、奈良観光の振興を中心市街地の活性化に向け、まちづくりを展開していく事が必要ではないかと考えております。

### なら国際映画祭・奈良の観光再生協議会を支援しています

5月23日に、カンヌ国際映画祭でグランプリを獲得した河瀬直美監督が企画する「なら国際映画祭」と、奈良市や観光関係者で作る「奈良の観光再生協議会」が、国の支援事業となる「地方の元気再生事業」に応募したことを発表しました。

奈良市中心市街地活性化協議会は、この2事業を支援しています。



## 宿泊者数は全国最下位の奈良県

～国土交通省「宿泊旅行統計調査」の結果から その①～

\*\*\*奈良県の状況\*\*\*

平成19年1月から国土交通省により、初めて実施されたもので全国の宿泊旅行統計調査が一年間の結果としてとりまとめられました。従来、観光統計は各都道府県がそれぞれ独自に調査していたため基準が統一されておらず、都道府県間の比較が困難でしたが、今回の調査で宿泊について信頼のおける比較ができるようになりました。

今回の統計によって奈良県の宿泊者の動向など注目すべきデータが示されていますので、まちづくりアドバイザーの梅屋則夫さんに取りまとめ・分析していただいた内容を報告します。なお、この調査は国内にある従業者数10人以上のすべての宿泊施設を対象に四半期ごとに宿泊者数を調査したものです。全体の回収率は71.5%、奈良県は79.3%です。なお、今回は全体の概要版のみについて報告し、データ等に基づく詳細な報告は次回以降に掲載します。

### ■ 1年間の延べ宿泊者数は116万人で全国最下位

- ・ 奈良県の1年間の延べ宿泊者数は1,167千人で全国の0.4%、数値としては高知県(173万人)、徳島県(123万人)に次いで全国最下位にあります。
- ・ 宿泊者には出張・業務で利用した人も含まれるので、観光目的で宿泊した者を推計するために観光目的の利用者の割合も聞いており、観光目的の宿泊者が50%以上の施設に泊まった





人の集計では、延べ1,084千人(92.9%)で、率としては最も高くなっています。

- ・ 他方、出張・業務といわれるビジネス客の宿泊者割合は7.1%と最も低く、この数値の低さが相対的に奈良県の宿泊者数の低さを表しているといえます。
- ・ しかしながら、当該県の人口100人当たり宿泊者数は、奈良県は82.1人で、埼玉県に次いで低く、観光県としては大いに物足りない数値といえます。

■県外からの宿泊者数は第46位

- ・ 県外からの日本人宿泊者数では995千人で、ここも徳島県に次いで下位から2番目でありトップの東京都が2,526万人と奈良県の25倍となっています。
- ・ しかし、全宿泊者数に占める県外宿泊者の割合は85.3%と京都府に次いで2番目の高さを示しており、県外のウエイトが高くなっています。このこと

は、本県は県内客の比率も12.4%と低く、絶対数を押し下げているようです。

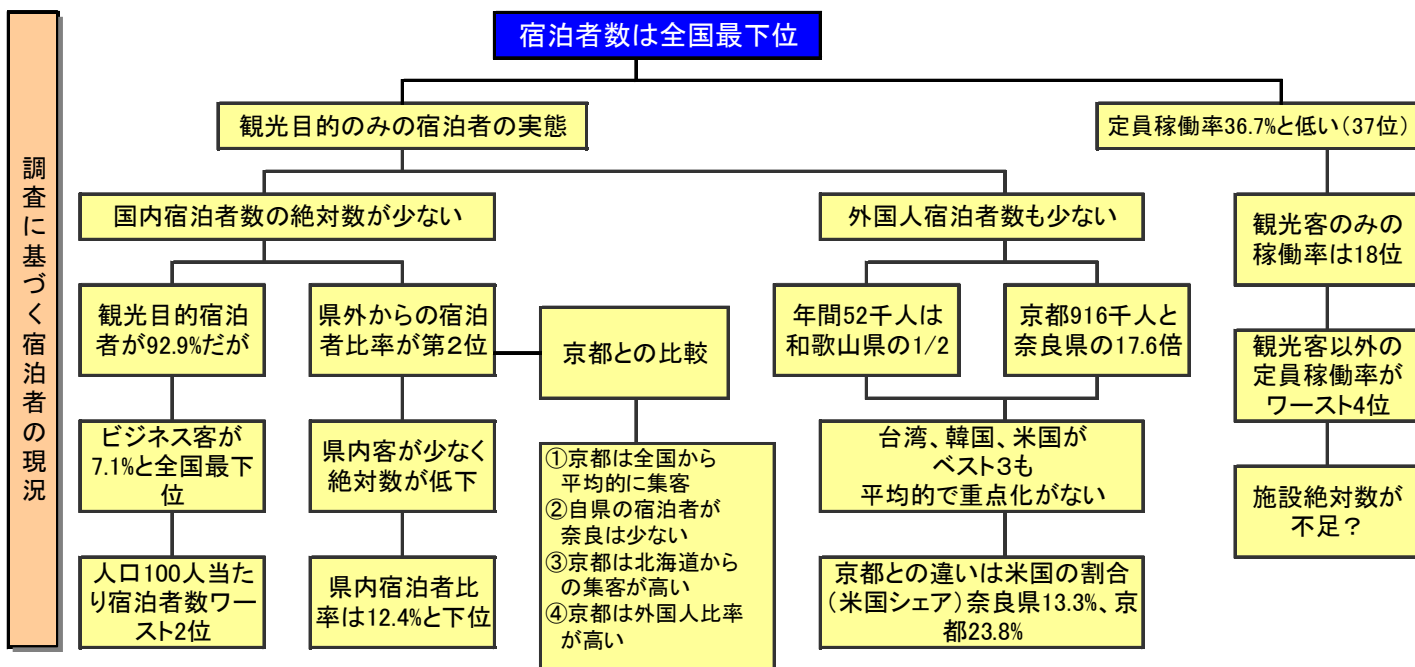
■外国人の宿泊者数は52千人で37位

- ・ 外国人の延べ宿泊者数は全国37位ですが、京都府は奈良県の17.6倍の916千人となり、京都や大阪との競合によって下位の水準となっています。
- ・ 国別では、台湾、韓国、米国がベスト3で全体の48.5%を占めていますが、アジア圏の割合がやや低くなっています(他府県は温泉誘客で実績増大)。

■定員稼働率もやや低く37位

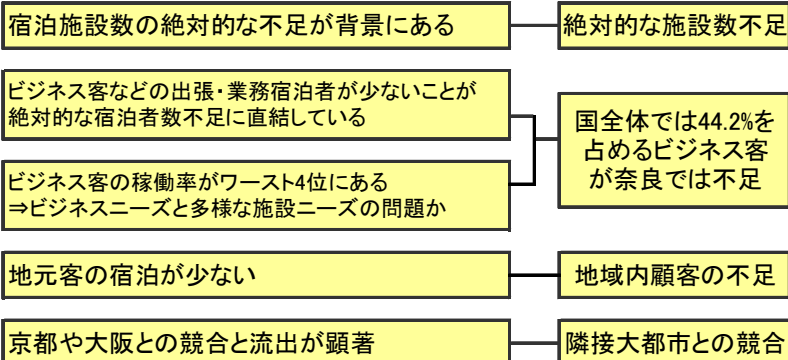
- ・ 全体の稼働率は36.7%で37位。しかし、全国的には観光客比率50%以上の稼働率が低いため、観光客のみの稼働率では18位となっています。
- ・ 観光客以外の稼働率が低く結果として全体の稼働率を引き下げているようです。

国土交通省 宿泊旅行統計から見る奈良の実態(平成19年1月~12月調査分)



調査に基づく宿泊者の現況

不足の要因は?



宿泊旅行統計からのまとめ

- 奈良の宿泊者全国最下位といえども、観光客の宿泊数で最下位ではない
- 宿泊者44.2%がビジネス客とすると、奈良はこの分野が弱いことによるもの
- とはいえ、観光県としては物足りない実態にあり、よりきめ細やかな誘客と泊の仕掛け作り
- 利用者視点に立った多様なニーズに応える施設整備が急務